

予防接種の基礎知識

大気社グループ健康保険組合

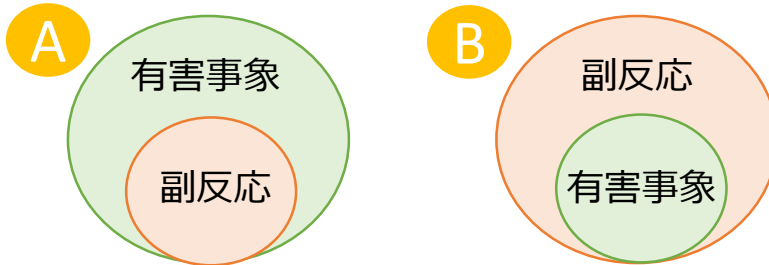
- ▶ 新型コロナウイルスワクチンの登場により、予防接種の意義や有効性、安全性等への関心が高まっています。
- ▶ 新型コロナウイルスワクチンに限らず、どのようなワクチンを接種する場合も、信頼できる情報を入手し、リスクとベネフィットを考慮して自分で判断することが求められます。

早速ですが以下クイズを解いてみましょう。

Q1.「ワクチン有効率90%」の説明として正しいものは？

- A) 100人にワクチンを打つと90人が発症しない
- B) ワクチンを接種しなかった人の発症リスクを1とすると、接種した人の発症リスクが10分の1になる
- C) ワクチンを接種しなかった人の発症率よりも、接種した人の発症率の方が90%少ない

Q2.ワクチン接種後の「有害事象」と「副反応」の関係を示す図として正しいのはどっち？



答えは次のページへ

コラム：風疹抗体価検査を受けていますか？

大気社グループ健康保険組合では、健康診断の項目として「風疹抗体価検査」を無料（補助上限あり）で受けられるようにしています。オプションになっている医療機関もありますので、申込時に確認してください。**特に、公的な予防接種が行われなかった世代の男性（1962年度～1978年度生まれ）は積極的に受診しましょう。**

妊娠中の女性が風疹ウイルスに感染することで生じる「**先天性風疹症候群**」は、免疫のない妊娠中の女性が風疹ウイルスに感染することで生じる胎児の病気で、**目や耳、心臓などに重篤な障害を引き起こす恐れがあります**。風疹にかかった男性から妊婦へ感染するケースもみられるため、注意が必要です。

1. ワクチンの有効率とは？

一般的に発症を予防する効果を指します。先ほどの設問の「ワクチン有効率90%」について説明します。

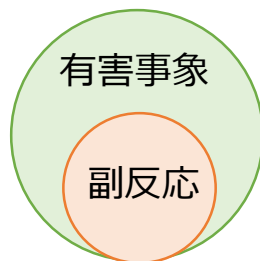
よくある勘違いは、「100人にワクチンを打つと90%（90人）は発症しない」というものです。

実際は、「ワクチンを接種しなかった人の発症率よりも、接種した人の発症率の方が90%少ない」という意味で、「ワクチンを接種しなかった人の発症リスクを1とすると、接種した人の発症リスクが10分の1になる」ともいえます。

Q1の答えは、BとCになります。

2. 有害事象と副反応の関係は？

➤ ワクチン接種後に起きた症状 = 副反応ではありません。接種後に生じたあらゆる好ましくない出来事は「有害事象」と呼ばれ、ワクチンが直接の原因ではない症状や病気もすべて含まれます。一方、副反応はワクチン接種と因果関係のある症状や病気をさします。



Q2.の答えはAになります。

- 特に新規のワクチンが導入されたときに留意したいのは、「接種後に起きた有害事象と副反応が区別されないまま情報が伝達されてしまうこと」です。その典型例が日本におけるHPVワクチンを巡る報道です。
- 一度は定期接種化されたものの、有害事象が大々的にマスコミで取り上げられたため、国は適切な情報提供が可能になるまで積極的な勧奨を一時差し控えるという判断を下し、現在も接種率は1%未満と低迷しています。

HPVワクチンの有効性

子宮頸がんの大部分は、ヒトパピローマウイルス（HPV）が子宮頸部に感染することで起きます。世界的にはHPVワクチンの接種が2007年から開始され、今では80か国以上で定期接種となっています。

2020年に公表されたスウェーデンにおける国家規模の調査においては、特に17歳以前にワクチンを接種した女性は、非接種の女性と比較して浸潤子宮頸がんの発症リスクが約90%低下しています。